

# 第28回 NPO 法人 口から食べる幸せを守る会 実技セミナーin 気仙沼 開催報告

会期：平成28年4月29日（金）

会場：気仙沼市立病院

主催：気仙沼・南三陸栄養サポート研究会

共済：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会® 気仙沼・南三陸「食べる」取り組み研究会  
気仙沼医師会 気仙沼歯科医師会 宮城県看護協会気仙沼支部  
気仙沼地区地域医療委員会 気仙沼薬剤師会 株式会社大塚製薬工場

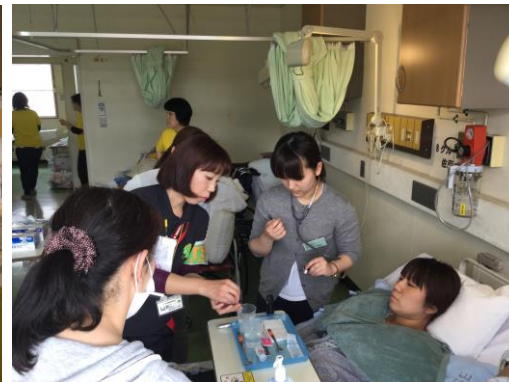
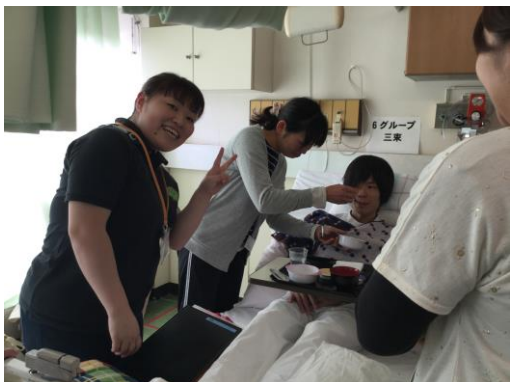
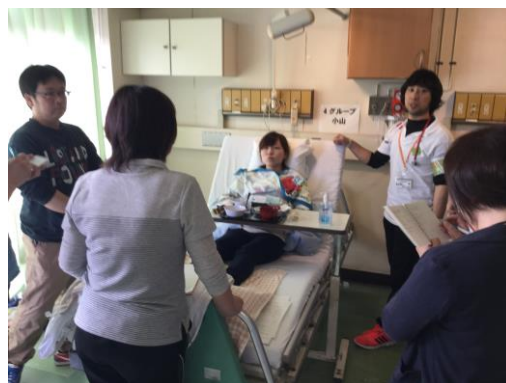
## 【開催目的】

早期経口摂取開始のための口腔ケア、ベッドサイドスクリーニング評価と安全・自立・効率的な食事介助技術のスキルアップが図れること、また「口から食べる」知識・技術を学ぶ機会を得て、気仙沼地域の経口摂取への取り組みが拡大することへ繋げて行くことを目的とする。

## アドバイザー一覧（敬称略）

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 （神奈川）	NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
竹市 美加 （大阪）	NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®副理事長 ナチュラルスマイル西宮北口歯科	看護師（摂食・嚥下看護認定看護師） KTSM 実技認定者
一瀬 浩隆 （宮城）	NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®理事 医療法人憲仁会 山谷歯科医院 気仙沼市立本吉病院 一関市国民健康保険藤沢病院	歯科医師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
佐藤さと子 （宮城）	気仙沼市立病院	看護師 KTSM 実技認定者
三束 梨沙 （宮城）	気仙沼市立病院	言語聴覚士 KTSM 実技認定者
山崎 綾子 （宮城）	気仙沼市立病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者
小野寺裕子 （宮城）	特別養護老人ホーム 恵潮苑	看護師 KTSM 実技認定者
熊谷 良弘 （宮城）	特別養護老人ホーム 恵潮苑	看護師 KTSM 実技認定者
小山 竜也 （宮城）	特別養護老人ホーム 恵潮苑	介護士 KTSM 実技認定者

## セミナーの様子

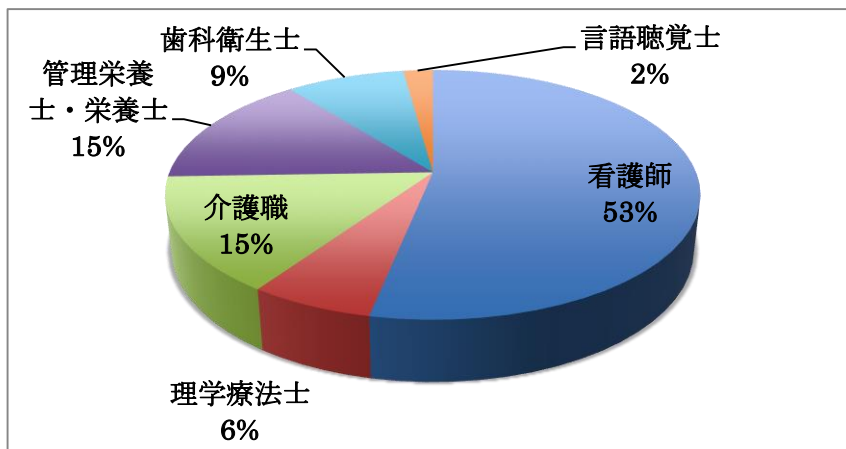


東日本大震災から2年後の2013年から気仙沼で実技セミナーを開始して、今回で3回目の開催となりました。このセミナーの2週間前に熊本地震が発生。小山さん、竹市さんは直前まで熊本で震災支援活動をされ、その後気仙沼入りしてくださいました。講義ではその熊本での活動の様子も報告され、その後の実技演習でも熱のこもった指導を受けて、参加者の表情は真剣そのものでした。

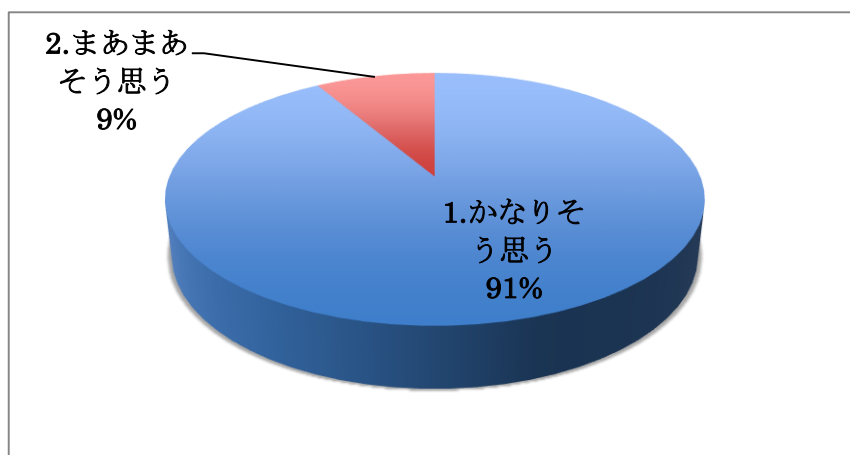
東日本大震災を乗り越えた気仙沼から「食べる」取り組みを発信していき、熊本や日本中を元気にしていけるよう、今後も継続して取り組んでいきたいと思ひます。

アンケート集計結果（回答者 47 名 回収率：96%）

【Q1：職種】



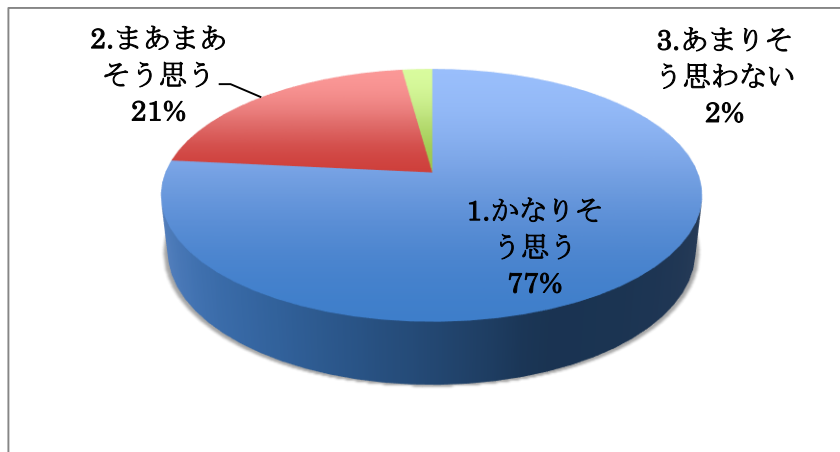
【Q2：セミナーの内容はスキルアップにつながったか？】



- ・ 姿勢に気を付けることで食べやすさが全く違うと自分が体験してわかった。口だけでなく全身に気を配ることが大切だと思った。
- ・ 患者役を体験してスプーンの角度、肘の位置1つ1つが意味があると感じた。
- ・ 実技は行ってみると細かい点で注意することがたくさんあった。
- ・ 介助される気持ちや自分に必要な技術を把握することが出来た。苦手な分野を繰り返し学んでいきたい。
- ・ 舌圧の強さや圧をかける意味がわかった。摂食のペースも体感できた。肘の安定も大切だと分かった。
- ・ 食事介助する機会は少ないが少し自信になった。
- ・ 実際に体験することで患者さんの気持ちがわかった。
- ・ 実践する機会は多くはないが基本を押さえ対応できるよう技術の維持向上に努めたい。
- ・ 自分の足りないところに気づいた。
- ・ 具体的な指導でわかりやすく、臨床で役に立つと思った。
- ・ 食事介助技術を活かしたい。
- ・ ポジショニングの大切さ。1つずつステップアップして観察していきたい。

- ・ 自分の行っていることの再確認ができた。
- ・ 介助されることでやってはいけないことがわかった。介助を見直したい。
- ・ 摂食に関する研修は初めてで実技も行えた。
- ・ MWS TやF Tが実践的で勉強になった。
- ・ 患者役を体験して新たな発見もあり勉強になった。
- ・ 過剰な介助ではなくより良い介助を学ぶことが出来た。
- ・ ポジショニングが食欲や覚醒に繋がることがわかった。
- ・ 自分の足りないところに気づいた。

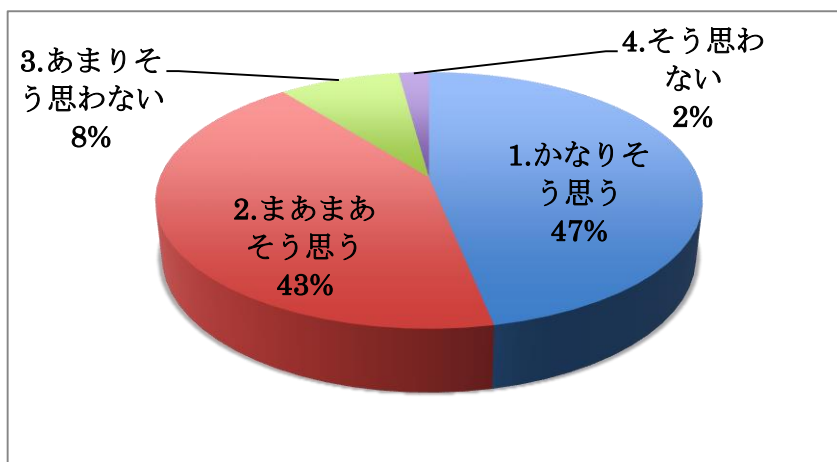
**【Q3：セミナーの内容はスキルアップにつながったか？】**



- ・ 食事介助時の姿勢、タオルの入れ方、食べさせ方等勉強になった。
- ・ 訪問歯科診療時にポジショニングを実践したい。
- ・ 在宅で活用していきたい。
- ・ 食事介助する場面が少ないため。
- ・ 明日からのケアに活かせる内容だった。介助支援に活用していきたい。
- ・ 食事介助の一部介助も全介助も活用できる利用者がたくさんいると思った。
- ・ タオル等の使い方が参考になった。60度アップ時の枕の固定が勉強になった。
- ・ 在宅で今日の内容を生かしたい。
- ・ 食事介助はすぐに活用できる。
- ・ ポジショニングや口腔ケア食事介助の方法を見直すことが出来た。
- ・ 車いすのポジショニングは今までと違って参考になった。
- ・ 食事介助だけでなくポジショニングが大切だと感じた。
- ・ 摂食困難者に実践していく。
- ・ 経管栄養患者の口腔ケア方法がわかりやすかった。
- ・ 個人個人にあったクッションの活用や食事介助方法の検討。
- ・ 車いすのポジショニングは今後気をつけたい。
- ・ 食事介助場面が多いので活用していきたい。
- ・ 食事介助、ポジショニング、口腔ケアなど1つ1つ再確認しながら行いたい。
- ・ 食事介助、ポジショニング、口腔ケアなど意識してやっていく。

- ・ ポジショニングが参考になった。あるものを最大限に活用したい。
- ・ すぐに病棟で活かせる。
- ・ 患者役を体験して理解することが出来、実践に活かせると思った。
- ・ 筋力低下の介助に活用・枕の固定方法・ポジショニング。
- ・ 病院でお互いに実践してみたい。
- ・ 患者役を体験して理解することが出来、患者の苦痛に気づいた。
- ・ 食事時のポジショニング。
- ・ ポジショニングを重視したタオル等の使用方法を活用したい。
- ・ タオル等の使用方法を活用したい。

#### 【Q4：自ら企画しようと思うか？】



- ・ 企画は難しいが、参加はしたい。
- ・ まずは自分ができるようになりたい。
- ・ 伝達し統一したケアを広げたい。
- ・ 食事介助のスキルアップとして企画したい。
- ・ 食事介助のスキルアップとして広く周知したい。
- ・ ケアマネ研修会や包括研修会でチャンスがあれば企画したい。
- ・ 在宅で家族やスタッフと統一したケアをしたいと思った。
- ・ 患者役・実施者役をお互いにやりたい。
- ・ 摂食嚥下委員会の勉強会で行いたい。
- ・ 企画して行く自信はないが知識の習得はしたい。
- ・ まずは自分ができるようになりたい。
- ・ 多くのスタッフに知ってほしい。
- ・ 摂食嚥下委員会で今回のことを広め実践につなげたい。
- ・ スタッフが統一した援助が提供できるようになるまで重要。
- ・ 嚥下チームで再度実技を行い、病院全体でも行いたい。
- ・ 全スタッフで対応できるようにしたい。
- ・ 自分には伝えられるかわからない。
- ・ ポジショニング。

- ・ 自分には伝えられるかわからない。

・

**【Q5：今後取り上げてもらいたい内容は？】**

- ・ 同じような内容でもいいのでまたセミナーを開催してほしい。
- ・ もっと食事介助の実技を時間をかけて学びたい。
- ・ 認知症や拒食の方への食事摂取方法。
- ・ 疾患別の患者の介助方法。
- ・ 誤嚥性肺炎の予防法。
- ・ 家族指導や栄養管理。
- ・ ゼリー食の分量の目安や食べ比べ。
- ・ 頸部伸展硬縮の患者の援助。
- ・ 小児の対応。
- ・ 拘縮・重度麻痺患者の対応。

東日本大震災を乗り越えた気仙沼から熊本へ、参加者の気持ちも一つになりました。



©2010 熊本県くまモン



©気仙沼市ホヤぼーや

**一緒にがんばっぺ！ 熊本！**

**ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！**